

## 2021年度 関西大学博物館実習

2021年度の関西大学博物館実習は、受講者42名で、内訳は表の通りである。関西大学では博物館実習を通年授業として設けており、金曜日の4・5時限のクラスと、土曜の4・5時限のクラスが、それぞれ学内での博物館実習と実習展の開催、学外見学実習などを行う。

今年度の博物館実習は、昨年度からの新型コロナウイルス流行により、2021年度授業第1週が休講となり、以降の春学期授業は主にオンラインを活用して実施することとなった。博物館実習の授業は、実技実務実習が主体であるという制約から、リアルタイム配信は行わず、オンデマンド配信に対応した関西大学の遠隔授業配信システム「関大LMS」に、担当教員の授業動画、教材や資料の配信配布、課題の掲示をおこなった。「資料の基礎的な取り扱い」から「資料の梱包」、「資料の調書の取り方」へと段階的に実習し、博物館における学芸業務全般についての基礎的な知識の習得を行うようにした。月に一回程度予定されていた日曜日を利用した近畿圏の博物館・美術館施設の見学実習は、実施できなかった。学内外の状況を見極めて、6月第1週から博物館実習室にて、対面で実技実務実習を行った。

2021年度秋学期の授業は、新型コロナウイルス流行の状況を見極めつつ、シラバスの内容をオンデマンド配信と対面授業で実施した。実習生による「関西大学博物館実習展」の開催に向けて具体的な作業を行う。この「博物館実習展示会」は、習得した学芸業務についての知識と経験、受講生の専門分野や興味を基に、グループを結成して準備、実施する展示会で、博物館実習の集大成としての行事である。受講生が自主的にグループを作ってテーマ設定し、展示資料の借用交渉と展示方法などの折衝を続け、充実した内容での展示会を実施する形で進め、今年度は、5班を編成して開催した。実習展終了後には博物館関連科学や研究活動についての実習と講義、講義最終日は実習の反省会を開催して、2021年度の博物館実習のカリキュラムを終了した。

カリキュラム内容は、後掲の「2021年度関西大学博物館実習日程」を確認されたい。

今年度の博物館実習担当教員は、本学教員とともに博物館・美術館や研究機関、行政機関に所属される学芸員、専門担当者を委嘱してあつた。

2021年度 担当教員

米田 文孝	文学部教授	黒田 一充	文学部教授
西本 昌弘	文学部教授	原田 正俊	文学部教授
高久 智広	文学部准教授	井上 主税	文学部教授
橋寺 知子	環境都市工学部准教授		
明尾 圭造	大阪商業大学商業史博物館	一瀬 和夫	京都橘大学教授
伊藤 健司	元財団法人元興寺文化財研究所	河内 晋平	studio 仕組代表取締役
北川 博子	関西大学文学部非常勤講師	高田みちよ	高槻市立自然博物館
高見 國一	刀匠	佃 梓央	一茶菴宗家
寺西 貞弘	元和歌山市立博物館館長	西川 卓志	元西宮市立郷土資料館館長
藤枝 宏治	藤枝春月（表具工房）	文珠 省三	元大阪歴史博物館
熊 博毅	関西大学年史編纂室	山口 卓也	関西大学博物館
伊藤 信明	関西大学年史編纂室	山下 大輔	関西大学博物館
佐藤健太郎	関西大学年史編纂室	合田 茂伸	関西大学博物館

## 2021年度博物館実習受講生数

### 全体

		3年次	4年次	合計
学 部	法 学 部			
	文 学 部	29	5	34
	経 済 学 部		1	1
	商 学 部			
	社 会 学 部		1	1
	政策創造学部			
	外国語学部			
	総合情報			
	社会安全学部			
	理工系学部	1		1
小 計	30	7	37	
大 学 院				2
科 目 等 履 修 生				3
総 合 計				42

院・学部・年次別	3年次	4年次	大学院	科目等	合計
1組（金曜日）	27				27
2組（土曜日）	3	7	2	3	15
合 計	30	7	2	3	42

# 2021年度 関西大学「博物館実習」日程

授業時間 1組：金曜日 4・5時限 (14:40~17:50)  
2組：土曜日 4・5時限 (14:40~17:50)  
2021.8.3

月	1組 (金曜日)			2組 (土曜日)			
	日	A班	B班	日	A班	B班	
4	9/金	担当者全員 第1学舎1号館603 寺西 なにお研セミナー室	クラス編成、実習簿・日程表配布等	10/土	担当者全員 第1学舎2号館C302 寺西 なにお研セミナー室	クラス編成、実習簿・日程表配布等	
	16/金	寺西	文化財保護法の解説 (林講)	17/土	寺西	文化財保護法の解説 (林講)	
	23/金	LMS	文化財保護法の解説	24/土	LMS	文化財保護法の解説	
	30/金	LMS	美術資料の取り扱い	1/土	北川	美術資料の取り扱い	
5	7/金	LMS	歴史資料の取り扱い	8/土	LMS	歴史資料の取り扱い	
	14/金	LMS	考古資料の取り扱い	15/土	LMS	考古資料の取り扱い	
	23/金	4限	黒田	民俗資料の取り扱い・民具調査と採集方法	4限	黒田	民俗資料の取り扱い・民具調査と採集方法
		5限	西本	文書資料の取り扱い	5限	西本	文書資料の取り扱い
	23/日	米田・山下 大阪歴史博物館・大阪市内美術館	博物館等施設見学 (大阪府下博物館)	中止			
	28/金	LMS	お茶と文化	28/土	LMS	お茶と文化	
30/日	伊・西田 一茶庵 (13:30~)	資料取り扱い・鑑賞 (茶室)	中止				
6	4/金	山口・山下 博物館展示室・実習室	考古資料の調査の取り方と梱包の仕方	5/土	山口・山下 博物館展示室・実習室	考古資料の調査の取り方と梱包の仕方	
	4/金	西川	考古資料の調査の取り方と梱包の仕方	5/土	LMS	考古資料の調査の取り方と梱包の仕方	
	6/日	伊藤 (信)・佐藤 古典芸能鑑賞	博物館等施設見学 (選択制①)	中止			
	11/金	伊藤 (信)・佐藤 博物館実習室	歴史資料の取り扱い	12/土	伊藤 (信) 博物館実習室	歴史資料の取り扱い	
	11/金	LMS	刀剣の取り扱いの基礎と方法	12/土	LMS	刀剣の取り扱いの基礎と方法	
	13/日	寺西・山口 近畿圏博物館見学 (和歌山方面)	博物館等施設見学 (選択制②)	中止			
18/金	西川 第1学舎1号館603	展覧会企画・ポスター作成/図録編集・出版	19/土	合田 博物館実習室	展覧会企画・ポスター作成/図録編集・出版		
18/金	LMS	展覧会企画・ポスター作成/図録編集・出版	19/土	LMS	展覧会企画・ポスター作成/図録編集・出版		
25/金	北川・明彦 博物館実習室	美術・工芸資料の調査の取り方と梱包の仕方	26/土	北川 博物館実習室	美術・工芸資料の調査の取り方と梱包の仕方		
25/金	LMS	表具の取り扱いと保存技術	26/土	LMS	表具の取り扱いと保存技術		

月	1 組 ( 金 曜 )			2 組 ( 土 曜 )		
	日	A 班	B 班	日	A 班	B 班
2/金	4 限	黒田 なにお研セミナー室	博物館の普及と広報と情報化	4 限	黒田 なにお研セミナー室	博物館の普及と広報と情報化
	5 限	伊藤(健) なにお研セミナー室	資料の備用と運送の現状	5 限	伊藤(健) なにお研セミナー室	資料の備用と運送の現状
4/日	博物館等施設見学(大阪府下博物館)					
7	4 限	米田・井上・高久 なにお研セミナー室	夏季休暇中の日程表配布と実習展の説明・班編成	4 限	米田・井上・高久 なにお研セミナー室	夏季休暇中の日程表配布と実習展の説明・班編成
	5 限	山口・山下 なにお研セミナー室	実習展の印刷物の作成方法について	5 限	山口・山下 なにお研セミナー室	実習展の印刷物の作成方法について
16/金	展示開発ワークショップ 博物館実習室					
18/日	博物館等施設見学(見学者動態調査・製作途中評価) 大阪府立弥生文化博物館・和泉市体験学習館					
2/月	博物館等施設見学(奈良方面) 西本・山口 元興寺文化財研究所他					
3/火	博物館等施設見学(大阪府下博物館) 米田・佐藤					
4/水・5/木	博物館等施設見学 西本・山下・山口・合田・佐藤 国立民族学博物館・万博公園内館園 博物館展示室、セミナー室他					
16/木 ~17/金	博物館等施設見学 黒田・石立 博物館展示室、セミナー室他					
24/金	資料写真撮影の目的と方法 西川 橋寺					
1/金	文化遺産としての建造物 橋寺					
3/日	博物館等施設見学(神戸市・建造物・景観見学) 橋寺・西田 竹中道長館・神戸居留地周辺景観観察					
8/金	4 限	米田・高久 Zoom	展示計画プレゼンテーション	4 限	米田・高久 Zoom	展示計画プレゼンテーション
	5 限	山口 Zoom	展示の技術(展示ケースの閉閉、展示台の使い方など)/実習展での資料 備用と梱包/印刷物等の提出方法について	5 限	山口 Zoom	展示の技術(展示ケースの閉閉、展示台の使い方など)/実習展での資料 備用と梱包/印刷物等の提出方法について
15/金	展示指導及び実習展準備作業(学生による自主作業) 西川・明星 博物館展示室					
22/金	展示指導及び実習展準備作業(学生による自主作業) 西川・文珠 博物館展示室					
29/金	展示指導及び実習展準備作業(学生による自主作業) 山口・山下 博物館展示室					
30/土	展示指導及び実習展準備作業(学生による自主作業) 山口・山下 博物館展示室					

月	1組 (金曜)		2組 (土曜)	
	日	A班	日	A班
11	5/金	伊藤 (信)・明尾 博物館展示室 展示指導及び実習展準備作業 (学生による自主作業)	6/土	伊藤 (健)・文珠 博物館展示室 展示指導及び実習展準備作業 (学生による自主作業)
	12/金	念羅担当者 (講師) 博物館展示室 講評 (14:40~)	13/土	土曜担当者 (講師) 博物館展示室 講評 (14:40~)
	8/月 ~12/金	各曜日担当者 (講師) 博物館展示室 実習展公開日 8/月~13/土 (10:00~16:00)	撤去(11/19-20 10:00~16:00)	
	26/金	高田 博物館実習室 自然史資料の保存と整理	27/土	高田 博物館実習室 自然史資料の保存と整理
28/日	高田・石立 自然観察・自然博物館 博物館等施設見学 (自然観察)			
12	3/金	博物館実習室 展示評価 (実習展の振り返り)	4/土	高田 博物館実習室 展示評価 (実習展の振り返り)
	10/金	西川 博物館実習室 博物館におけるデザイン	11/土	合田 博物館実習室 博物館におけるデザイン
	4限	佐藤 博物館実習室 博物館における資料研究	4限	原田 博物館実習室 博物館における資料研究
	5限	文珠 博物館実習室 展示における照明と生物被害	5限	文珠 博物館実習室 展示における照明と生物被害
	24/金	担当者全員 古文書実習室(0棟) 1年間の反省・学芸員の課題	25/土	担当者全員 古文書実習室(0棟) 1年間の反省・学芸員の課題
13/木 締切	1組・2組全員 (提出場所) 博物館事務室 博物館実習簿及びレポートの提出 (レポート論題)「自由題」 A.4判 横書き 4000字 (原簿用紙・ワープロ作成いづれも可)	提出期間 1/7~1/13 提出時間 10:00 ~ 16:00 (12:30~13:30は除く)		
9/水~	1組・2組全員 (受取場所) 博物館事務室 博物館実習簿及びレポートの返却	受取時間 10:00 ~ 16:00 (12:30~13:30は除く)		

【実習上の諸注意】

- (1) 実習に関する全ての連絡は、関大LMSの「お知らせ」または「メッセージ」にて行うので、実習のある日の前日には、必ず関大LMSをチェックすること。  
また、休日に実施する実習・見学等の詳細については、その都度授業中に指示をすることもあるので注意すること。
- (2) 見学は時間的に制約される場合が多いので、時間厳守で集合のこと。
- (3) 館内においては、館則を守り、学生としての品位と自覚が必要。また、万年筆・ボールペン等は使用しないこと。鉛筆のみ可能。
- (4) 実習簿は所定の日に必ず提出すること。その際、配付した資料・見学実習等で集めた資料等も実習簿にファイルしておくこと。また、帰点は各自へ返却するので必ず受取りに来ること。



2021年度

11月8日(月)～11月13日(土)

# 関西大学博物館実習展

開館時間… 10時～16時

(入館は15時30分迄)

入館料… 無料

会場… 関西大学博物館

特別展示室(簡文館内)



関西大学博物館 関西大学千里山キャンパス 阪急千里線「関大前」駅 徒歩10分  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-35 TEL:06-6366-1171 E-mail:hakubutsukan@ml.kandai.jp





2021年 関西大学博物館展覧会

2021年11月8日(土)～11月13日(木)

10時～16時

入場料 無料

関西大学博物館 特別展示室 (館内展示)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

TEL:06-6368-1171

音楽ナウ

2021.11.08◎11.13

2021年11月8日(土)～11月13日(木)

10時～16時

入場料 無料

関西大学博物館 特別展示室 (館内展示)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

TEL:06-6368-1171

第4班 音楽班

2021年 関西大学博物館展覧会

2021年11月8日(土)～11月13日(木)

10時～16時

入場料 無料

関西大学博物館 特別展示室 (館内展示)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

TEL:06-6368-1171

音楽ナウ

2021.11.08◎11.13

2021年11月8日(土)～11月13日(木)

10時～16時

入場料 無料

関西大学博物館 特別展示室 (館内展示)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

TEL:06-6368-1171

第5班 和楽器班

2021年 関西大学博物館展覧会

2021年11月8日(土)～11月13日(木)

10時～16時

入場料 無料

関西大学博物館 特別展示室 (館内展示)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

TEL:06-6368-1171

和楽器

2021.11.08◎11.13

2021年11月8日(土)～11月13日(木)

10時～16時

入場料 無料

関西大学博物館 特別展示室 (館内展示)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

TEL:06-6368-1171

2021年 関西大学博物館展覧会

2021年11月8日(土)～11月13日(木)

10時～16時

入場料 無料

関西大学博物館 特別展示室 (館内展示)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

TEL:06-6368-1171

和楽器

2021.11.08◎11.13

2021年11月8日(土)～11月13日(木)

10時～16時

入場料 無料

関西大学博物館 特別展示室 (館内展示)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

TEL:06-6368-1171



展示会風景



博物館実習展会場



第 1 班 狐班



第 2 班 天保山班



第 3 班 戦時国債班



第 4 班 音楽班



第 5 班 和楽器班



# 関西大学博物館実習展（講評）

日程 2021年11月 8日(月)～11月13日(土)10時～16時

場所 関西大学博物館特別展示室（簡文館内）

## きつね～人と狐の不思議な歴史～

- - ・ポスターやパンフレットのデザイン性は高い。動画もわかりやすい。
  - ・人と狐の歴史をみていく、関係がどのように変化してきたかをみる展示といいながら、時系列での展示になっていない。ストーリーになっておらず、途中で終わっている印象を受ける。
- - ・信仰や各社、各資料・作品に関する歴史的な記述（解説）がない。各資料・作品や各社・事柄の年代や時期、時代を明示すること。
  - ・掛け軸「稻荷狐図」の解説文の内容からは、この作品を展示する必要性を感じない。また、作品と作者の解説が欲しい。
  - ・全体のレイアウトは、うまくおさめている。ただし、ポスターパネルの配置は要工夫。
  - ・ラベルの配列が不ぞろい。きちんと揃えること。
  - ・解説パネルの文字が多すぎる。1行が長すぎる。
  - ・ラベルのマージンが小さい。字面の周りに余白をとること。
  - ・パネル・ラベルは、縦組み・横組み混在している。どちらかに統一するべき。
  - ・縦組みパネル・ラベルの行間が不適切（大きすぎる）。
  - ・ポスターパネルの角がつぶれている。作品・資料に限らず、展示物は丁寧に扱うこと。
  - ・不要な「 」、『 』が多い。
- 【よかった点】
  - ・パンフレットではA3一面を効果的に利用していた。
  - ・キャプションに色違いのマークをつけて、第1章と第2章をわける工夫があった。
- 【よくないと感じた点】
  - ・序章と第1章の説明キャプションが近すぎて、序章の説明キャプションの下に展示品があり、第1章の説明キャプションの下から展示品が始まらない。
  - ・各キャプションの文字間隔がバラバラで、また全体的に文字が小さく読みにくい。
- - ・解説パネルが小さく、文字読みにくい。カットが不揃い。
  - ・締めくくりがほしい。展示の有機的なつながりが見えにくく、やや散漫な展示に見える。
  - ・ポスターは、色調雰囲気がよい。
  - ・パンフレットは結び、結論の文章がほしい。
  - ・展示構成から考えて、エピソードがあったほうがいい。
  - ・解説動画は、編集されすぎて、すでに「番組」となっている。自分たちがなぜ展示したかを、解説してほしい。

- - キャプション文字小さい。
  - 解説が足りないので全体のテーマが分かりにくいし、個別の展示資料の解説も必要では。全体的に解説不足。
  - 借用してきた資料は展示すべき（企画の段階で展示構成・レイアウトはしっかりと固めておく）。
  - キャプション横書き・縦書きが混在。
- - 列品解説がなく、キャプションだけなのはなぜか？
- - 全体を2分する設計はよいが、やや展示に散漫なところがある。解説の文体も「ですます」ではなく、やや読みづらい。
  - ラベルの作成にやや稚拙なところが見られるのが惜しい。
- - パネルの切り方が雑。
  - 第二章の壁面がもったいない。
  - もっと掘り下げられるのでは。
  - 丸いアイコンみたいなイラストかわいいですね。
- - きれい。第一章のキツネは整っている。きつねのよめいり巻の上の処理。
  - 動画、画面がフラフラ。
- - 展示の絵画作品は美しく見ごたえがあった。
  - パンフレットの構成はストーリーがわかるようにしては？
  - 動画に作品のキャプションもあるといいのでは？
- - テーマ的に興味をひきつけるものであるが、研究図書などを読み、時代の変化などをおさえる必要がある。
- - ルビが少ない。
  - 小キャプションは読めない（文字ポイントが低い）。ルビについても、文字数についても多過ぎ。
- - パネルのしわ、カットの仕方が汚い。
  - キャプション（解説）余白が少なすぎて、読みにくい。
  - 作品名のキャプションのデザインが良い。力のある作品を展示しているので、充実感、安定感がある。
- - 資料の配置は良い。ただし、パネルの位置が少し高い。
  - パネルの文字、少し読みにくい。文字数も少し多い。ルビが小さくて読めない。
  - 題箋の文字小さい。ルビがさらに小さく読みにくい。
- - ポスター、解説動画など、デザイン的に優れ、工夫がみられた。
  - 展示については、「きつねのよめいり巻」「稲荷狐図」といった見ごたえのある作品が展示できた点は良かった。ただし、パネルの切り方が雑であり、キャプション後ろのしつらえが露出している点などが気になった。パネル位置の高さなども含め、観覧者に対する配慮において改善すべき点があると感じた。
- - 狐の信仰は稲荷信仰と関わることをもっとわかりやすく説明する必要があります。私の専門から言うと、田の神が春先に里に下りて、秋に山に帰ると書いていますが、今の民俗学

の研究では、この説を具体的に表す事例（往復とも明らかな事例）が見当たらないので、疑問視されています。

- 解説の民俗学的な説明が、民俗学の研究史の動向をふまえたものか、よく調べてみて下さい。
- 目線が下すぎて、少し見にくかったです。

## 天保山 浪花の新名所

- 時系列で展示内容がまとまっており、わかりやすい構成になっている。
- 絵画の色彩がとてもきれいなため、作品のもつ力強さをもっと生かして展示してほしい（見せ方の工夫）。
- 翻刻をしており、手間をかけているが、書き下しもほしい。
- パンフレットは、文字が目立っており、写真とのバランスを考えてほしい。
- 天保山の年代記や位置図・標高など、天保山の基本的な歴史・地理情報を最初に提示するべき。日本の低い山ベストテンくらいは、示してほしい。
- 大阪画壇→大坂画壇。大坂画壇と浮世絵版画を対比的に表現するのは、カテゴライズが異なるため、不適切ではないか。大坂画壇という近世絵画作品の種別はないのでは？
- 森一鳳ラベル「森一鳳とは、…」の「と」は不要。「森一鳳は、」で始める。
- 作品と作者の解説を明確に分けて、それぞれに必要なかつ十分な解説文を付すこと。
- 歌川貞枅「浪花天保山風景」写真の展示は必要か？ その他の壁面の写真パネルを取捨選択すること。写真が多いため、下に陳列されている作品・資料に目が行かない。なお、「貞枅」では？
- ポスターパネルをつりさげているピクチャハンガーのワイヤ端が始末できていない。丸めるか、パネルの裏にテープで貼り付けるなどして、ぶらぶらと遊ばないようにすること。
- 赤のタイトル表示は、意外と目立たない。文字と地色のコントラストが低いため、視覚障害者には読みにくいのでは？ また、位置も高い。
- ラベル、パネルの書体がバラバラであるのはいただけない。
- 【よかった点】
- 説明キャプションには色や模様があって見やすかった。
- 翻刻に取り組んでいた。
- 【よくないと感じた点】
- 展示品に関するキャプションには、説明キャプションのような工夫はなく、かつ文字が目一杯書かれて非常に読みにくいものがあった。
- 使用するフォントの種類が多いため、統一性がない。
- 旧字（正字）を使用しているが、そこにこだわる理由はなにか。「名所圈會」（正しくは名所図会）は誤字である。
- 導入の解説パネル 文章はよいが、貼りこみとカットがだめ。
- 題箋が小さい 解説内容はよいが、パネルは位置が高い。
- 展示構成はよいが、締めくくりほしい。

- ポスターは、大阪在住者向けのイメージとなった。
- パンフレットは、来館者が持って帰るものなので、結び、結論の文章がほしい。
- 解説動画は、撮影ノイズが多い。冒頭、展示全体の俯瞰をしたほうが良い。できれば手持ちのボードを写さない。カメラの揺れが大きい。画面構図が不安定。締めくくりをはっきり場面を作って設ける。
- • 展示で最初に全体のテーマの説明が必要。天保山についての説明（高さなど、）も足りない。
- 全体的にパネルがそろっていない。字が小さく細い。
- パネルに縦書き・横書きが混在。
- • 展示解説の列品解説がキャプションだけで、パンフにある解説をなぜ掲示しなかったのか？
- • 展示全体は無難にまとめている。コーナーごとの解説がやや長く、読んでいただくのは無理か？
- なぜ「天保山」をとり上げているのか、不分明。
- 天保山の個別の内容はよくわかる。
- • 着眼点がいい。写真を撮りに天保山に行った？そういうところいいですね。
- 動画撮影はガラスの反射が気になる。
- あいさつパネルの張り合わせが雑。
- 押しピンが落ちているのが気になる。
- • タイトルはつまった感じ。
- 全体にまとまった展示。第三章現在が細かいのを一枚に。
- もう少しでストーリーが成立。
- 目線、高い目。
- 動画、タイトルがない。しっかりと説明する。
- ポスター、すっきりとしていない。
- • ポスター：写真と文字のレイアウトはOK?（現在の写真に“浪花の新名所”がかかるより、江戸期の方がいいように思える。
- パンフレットはわかりやすい。
- • まとまりが良いテーマで、この点は評価できる。大坂の都市史のなかでの位置付けにもう少し配慮してほしい。
- • 解説用のパネルの文字が小さいし、ルビがない。
- キャプションの文字の統一性。
- パンプの章題と展示の章題があってない。
- • 複製が「～蔵」と原物資料と同じ扱いになっている。原物と複製の区別は明確にすべき。複製はパネルの中に入れるなど、作品ではなく説明として用いるべき。せっかくの原物があったくない。
- 作品名は画中に文字がある場合、それによるのが良いのでは？
- • 資料の配置は良い。ただし、パネルの位置が少し高い。章を示すパネルがさらに高い、目立つものにした工夫は良い。



- パネル文字が少し小さい。
- 題箋文字は良い。ルビも読める大きさとなっている。
- • 天保山をテーマに絞ったことで、コンパクトにまとまった理解しやすい構成となっていた。
- スペースの問題や貸出条件もあるが、パネル位置の高さ、作品保護のフィルムやテープの照明反射など、少し見づらさを感じた。
- ポスター、パンフレットについては、対象スペースぎりぎりに文字が詰めこまれすぎている印象を持った。情報の優先順位を付け、文字サイズやフォントの選択に階層性を持たせるなどの工夫があるとよかった。
- • あいさつ文で、一番低い山で、その地位が別の山に移ったとありますが、いったいどちらの山の標高が何mなのか書かれていません。展示する側が知っている情報が、お客さんが知っているとは限りません。
- • 全体的に手堅くまとめていると感じました。
- ルビの間違いと思われる資料、資料名の異同があったので、こまかなチェックが必要です。

#### 戦時下の日常～戦争遺品が語る人々の暮らし～

- • 戦時国債やすごろくといった展示品は見応えがあった。こういった展示品がもつ力をさらに伝えられるよう工夫してほしい。
- 全体として、ストーリー性が弱く、展示が途中で終わってしまっている印象である。
- 主婦の友やお父さんの戦友といった雑誌や本は、タイトルをみせるのが重要なのか、中身をみたいという観覧客もいるのではないか（見せ方の工夫）。
- • あいさつ文：「戦争がいかに生活に反映されていったのか」→「反映」が最適表現とは思えない。文は徹底的に推敲を重ねること。→たとえば、「近代戦争は、国民の日常生活にどのような影響を与えていったのか」など。文は、主語→目的語→述語を基本とし、二重構文・二重否定・受け身文は避ける。
- 「戦時国債」は通称ではないか？ 制度や債券の種類の違いも合わせて、「戦時国債」に関する歴史的な全貌を垣間見ることができるような解説が必要。
- 制服の代用ボタンは、「金属が不足したため」ではなく、金属が、戦争遂行のための軍需物資として統制され、民生用として使用することに著しい制限があったため、であろう。ボタンをレンズで拡大する必要はなく、「陶製の代用ボタン」などのラベル表示が適当。ラベルと資料の左右配置が逆。
- 軍事郵便は、検閲が原則では？ 検閲印があるから検閲である、ということではない。
- 「大人からみた景色」「こどもからみた景色」の「景色」という表現には、戦争の只中にいた国民が第三者的に社会を見ているような感じを受け、非常な違和感がある。
- 『ヨミカタ』のラベルには、「昭和60年 大空社発行」とだけ記されているが、復刻年や復刻版発行所よりも、原品の教科用図書が、いつからいつまで使われたのか、なぜ墨塗なのか、だれが墨塗させたのか、墨塗教科書で授業はできたのか、が重要。また、なによりも、「墨塗教科書」が使用されたのは、戦争終結後の教育現場であるので、「戦時下の日常」で

はない。

- 歌集本と、歌の抜き出しラベルの配置が悪く、遊離している。
- 展示資料が多いためか、歌集の扱いが小さくなってしまっている。残念。
- ラベル・パネルの組版が縦横混在しているのは良くない。統一すること。

○ 【よかった点】

- 拡大鏡を設置し、小さい展示物を見やすくしていた。
- 戦争や生活にかかわる年表を作成し、当時のことを知らない人にも伝えようと工夫をしていた。

【よくないと感じた点】

- 戦時国債の展示箇所の展示品が多く、『主婦の友』やそのキャプションが窮屈である。
- 展示品（債券）をビニールに入れたまま展示した理由がよくわからない。
- 軍事郵便のキャプションには「個人蔵」とあるが、1点は年史編纂室蔵である。
- 展示構成はよいが、締めくくり、エピローグで、今の私たちとのつながりがほしい。
- 解説パネルの位置が高い。
- ポスターは、問題なし。
- パンフレットにも、結びがほしい。
- 解説動画は、インタープリターが一貫しておこない、好ましい。締めくくりは、場所を変えましょう。
- 全体的に解説が少ない。用語の使い方も不確かなものがある。
- 展示資料・パネルが多く雑然としている。
- パネルのレイアウトが全体的にそろっていない。文字が小さい。
- 縦書き・横書きが混在する。
- 展示解説を統一できなかったか？
- こまごまとした展示物をうまくまとめているものの、やや散漫な感じが否めない。
- 戦時生活をとりあげたのは良いが、戦争との関連が乏しくなるという、常なる問題あり。
- パンフレットの文字が読みにくい。プレーバックの所は読ませる必要がないなら、もっとデザイン的には？
- もっと掘り下げられない？
- 黒塗りの教科書を比較しているところは良かった。
- タイトルは見やすい。
- 全体的に不安定な展示。
- 動画、フラフラ。タイトル分かりづらい。
- ポスター、キャッチがない。
- テーマは興味深い。
- ポスターの文字部分が見づらい（柄として扱っている気もするが、思わず読んでしまう）。
- 展示の雑誌の中が見たい。
- 時代背景の説明がもっと必要。
- ルビがない。キャプションの文字が全体に小さい。

- 小さな資料が多いのか、つまった感じがする。
- ボタンの位置を変えれば、虫めがねの中にライトが入らないのでは？
- • キャプションのしわが気になる。
- 個別キャプション小さすぎ。
- 壁面展示、もう少し工夫があってもよいか。
- 全体的なまとまりはある。
- • 資料配置は良い。パネルの位置が少し高い。
- 題箋の文字は読みやすい大きさになっている。
- パネル文字の大きさは良い。パネルの枠囲いはアクセントになって良い。
- 解説文と題箋に、年号に元号のみのところと西暦が入っているものが混在している。統一が必要。
- • 拡大鏡を用いたり、展示台を二重にするなど、資料に応じて見せ方に工夫がみられた点は評価できる。
- キャプションや解説パネルに統一的なデザインを採用し、資料タイトルと解説文等の文字サイズに階層性を持たせていた点は良かった。ただし、年表はもう少し大きい文字が太い文字などを用いたほうが見やすかったと思う。
- 動画解説は聞きやすかったが、雑音やガラス面への人の映り込みに配慮があるとより良かった。
- • 戦時下の暮らしで国債が発行されたことが紹介されています。その戦時国債はいつから発行されて、どのくらいの金額が発行されましたか。その発行期間は1941～1945年に限定されるのでしょうか。説明不足だと思います。
- • 章立てとは違った資料が展示されていたので（大人のコーナーに学生服のボタン、子供のコーナーに週刊朝日）、もう少し調整が必要です。

### 音楽ナウー思い出再生中ー

- • ポスター、パンフレット、キャプションなどの色彩の統一感があって良かった。展示テーマ、コンセプトはわかるのだが、展示内容とうまく一致させることができていないのではないか。近年注目され、再評価されているレコードにもっと焦点を当てた展示でも良かったか。
- • 漫然と新旧の音楽プレイヤーが並べられているが、何を見てほしいのかが伝わってこない。
- 各プレイヤーや媒体の歴史性の解説はほとんど無視されているが、それでいいのか。音楽プレイヤーの変遷を見せるのならそれぞれの機器・媒体のエポックメイキングなものを展示し、その歴史的・音楽史的・産業史的な解説が付されるべきではないか。
- 各プレイヤーや媒体はそれぞれに発明者・開発者がいるはずだが、触れなくていいのか。
- ヘッドホンやスピーカーがないのはなぜ？
- プレイヤーや媒体の変遷の背景（社会や産業の遷移、ネットワークの発達など）があつてこその変化では？ 聴者の嗜好や利便性のためだけに変わってきたのではないはず。
- 音質や記録時間など、各媒体による長所短所、価格の比較なども必要では？

- レコードの規格は、JIS や日本レコード協会規格などに当たって「通称」や「俗称」ではなく正確な名称を把握したうえで、たとえば、「レコードディスク LP 盤」などと表示すべき。→博物館は利用者に対して、正確で最新の情報を伝える使命がある。
  - 展示資料数が多い。
  - パネルは、しっかりと四隅をピンでとめること。一部、傾いているものがある。
  - カラヤン第九のレコードジャケットを壁にピン留めするのは、禁じ手。資料保存上やっちはいけない。
  - 解説ビデオの「カセットテープ」の解説に間違いがある。
- 【よかった点】
- 「思い出、再生中」というキャッチフレーズがあり、確かに懐かしく思えた。
  - 採点表があり、わかりやすかった。
- 【よくないと感じた点】
- 順路が他と異なっているのに対して、「順路→」を置いて工夫はしているが、もっとわかりやすい工夫をすべき（観覧していた時も、多くの人は逆から観覧していた）。
  - パンフレットには第○章とテーマが書かれており、順序などがわかりやすいが、展示ではそれらがなくどのようにみるのかがわかりにくかった。
  - 「思い出、再生」ができる層はある程度の年齢に達した人物であり、実習生よりも若い人たちにはこれが当てはまるのか（それともそのような年齢層は観覧対象としないのか）が気になった。
  - パンフレットでは、A3 一面を利用してよいが、文章が多い。
- • 高年齢世代には、IPOD、MD、Lカセットなど、展示されていないものも経験がある。できれば網羅すべき。再生の仕方、ステレオ、イヤホンなどの変遷も強調すべき。
- やや展示が散漫に見える。
  - パネルの文字の大きさはよかった。
  - パンフレットは、結びがほしかった。
  - 解説動画は、キャスター、展示、パネルが組み合わせあって、良い。解説動画には、むすびがあった。
- • 全体的なテーマの解説が必要（わかりにくい）。音楽プレイヤーをみてもらいたいのか、メディアの移り変わりなのか。
- 手元にあった資料だけをピックアップしている感がある（そのほかにも必要な資料があるのでは）。
  - それぞれのメディアについての概説的な解説が必要。
  - メディアの移り変わりの背景にあるものとは？
- • 展示題名が「音楽ナウ」となっているが、もっと適切な名称はなかったのか。列品解説がほしい。
- • 解説とラベルにメリハリがあって、見やすい。ただやはり、解説の文体が「である」調なのは読みにくい。
- 文全体のフォーマットがあるのは、設計がしっかりしていてよい。

- ・導線が悪い。並べる順、人の動きを考えて。
  - ・ノリパネの作り方は練習必要。
  - ・蓄音機の☆は？
  - ・何の順に並べてるかわからないので、整理必要。
- ・分かりやすくすっきりしているが、解説が単純すぎる。パンフレットのようにパネルを構成する。
  - ・群としてのストーリーがない。パンフレットの方がある。
- ・音楽（音）を扱う展示はモノがないので難しい。再生する装置、あるいはメディアへの関心があるようにも推測できるが、そうであれば、出現順にするとか、モノに応じて音が出るしくみへの言及があると分かりやすいかも。（動画があるのに…）
- ・一人称のつぶやきの解説が共感をよぶかが疑問。
- ・パンフの文字数が多い。
  - ・パネルの貼り方に統一感がない。
- ・キャプションしわだらけ。
  - ・「見せる」だけでは成り立たない展示であることを前提としなくては行けないが、その工夫が十分とはいえない。
  - ・パンフレットは一見、取扱説明書のように。（それがねらいですか？）
- ・資料配置は良い。パネルの位置が少し高い。
  - ・パネルの文字数が少し多い。
  - ・題箋内の解説文字が少し小さい。
  - ・照明でスポットの使用はアクセントがあって良いのだが、使用には注意が必要。
- ・ラジカセなど、展示台からはみ出している資料があった。また、キャプションの切り方やピンの打ち方などが雑である。また、アクリル製斜台の上にプラスチック製のカセットテープなどを展示するのは、すべり落ちる危険性がある。
  - ・ポスターはオーソドックスなデザインだが、展示タイトルを強調し、他の情報についても優先順位に応じて大きさを変えたり、飾りを施すなど、工夫が見られた点はよかった。
  - ・解説動画は表や比較画面を挿入するなどの工夫が見られたが、音声小さく、雑音が入っているため、聞き取りづらかった。
- ・前の「戦時下の日常」から続くと、順路が逆になっていて、あいさつ文がないので困惑しました。音楽を聴く媒体が様々紹介されているのですが、レコードとともに、雑誌の付録になっていたソノシートがないのですが…。
- ・展示品のほとんどを自分は実際に使用してきたので、いまいち共感できない展示でした。
  - ・音楽の記録媒体としてのモノと、再生装置としてのモノが入り乱れて、分かりにくく感じました。

#### 発見！こんなところに和楽器～埴輪から漫画まで～

- ・多くのモノを展示しようという意欲は感じられた。吹田市博から借りた展示品も実物資料として良かった。

- 最初に、この展示で扱う和楽器について、定義づけが必要だったのではないか。
- 全体的には散漫な印象である。平等院の菩薩像のトランプは、トランプにも和楽器がという発見なのか、仏像のなかに楽器を弾くものがあるという発見なのか、ややわかりにくい。レコードも同様である。
- 現代社会のなかでの和楽器の在り方なのか、時系列で時代ごとに和楽器の変遷を追うのか。
- •和楽器の定義を、吟味されたい。たとえば、人物埴輪が弾いているコトは、今日的な意味での「和楽器」か？ 古墳時代に「和」の呼称を当てるのはむずかしいのではないか？ 奈良時代に中国唐から伝わった楽器は、どうなのか。
- かくれた和楽器、というテーマなら、そのかくれた楽器をそれぞれの展示資料から引き出して演示する必要がある。観覧者に対して展示資料の「見方」を示すことが必要。そうしないと、観覧者が展示内容に深く踏み込んでいくことができず、観覧者が持っている知識だけで資料を見て終わる。
- 壁面に貼り付けられている写真は、本当に必要か。展示資料、写真、パネル類が過多。
- 五人囃子、笛、太鼓、琵琶の個別の解説が必要ではないか（それぞれの年代、個別名称や使用される場面など）
- かくれている楽器、だとしたら、横笛、太鼓、琵琶はなぜ展示されているのか？ 展示会の導入としての和楽器の説明展示にしては、多くの空間を占めているように思うが、どうか。
- レコードがなぜ展示されているのか、よくわからない。レコードと和楽器の関係は？
- レコードの規格は、JISや日本レコード協会規格などに当たって「通称」や「俗称」ではなく正確な名称を把握したうえで、たとえば、「レコードディスク SP 盤」などと表示すべき。→博物館は利用者に対して、正確で最新の情報を伝える使命がある。
- 横笛の展示方法は、資料の存在感を増すような工夫をされたい。
- 向かって右側の展示ケース内の、展示物と「和楽器」の関係性がわかりにくいので、もっと和楽器との関係性を強調する展示方法や解説をするべきではないか。
- 全体として、展示物と「和楽器」の関係性をもっと強調するべきでは。

○ 【よかった点】

- 和楽器の実物が展示されていた。

【よくないと感じた点】

- 五人囃子を置く台の毛氈の始末が悪い（どうしたいのかがよくわからない）。
- 五人囃子の並べ方はそれで正しいか。
- 「リアルな和楽器の味を楽しんでいただきたい」とあるが、動画を再生しない場合は「どう味わうのかがわからない。動画をみない人も対象にいった説明文であるべきではないか。
- レコードの展示物とキャプションとQRコードがまとまって配置されていないため見にくい。
- 見ればわかるが、人物埴輪と曼荼羅図のキャプションにも「複製」などを入れておくべきだと思う。

パンフレット掲載の画像が小さく、また文字が多く占めており、見づらい。

- - パネル類の文字サイズはよかった。「はじめに」「終わりに」のパネルが少し小さい。「終わりに」で、全体をまとめるのはよかった。
  - 和楽器の概念を明確にしないといけない。
  - パンフレットの構成もよかった。
  - 解説動画は、すでにパワーポイントと同様に「番組」となっている。できれば展示解説は、学芸員の人格として行うものなので、インタープリターのキャラを前に出して作ってほしい。
- - 資料・パネルが多く窮屈な感じがする。本当に全部必要？
  - パネルの文字が小さい。
  - 展示のテーマからすると太鼓・琵琶・笛は必要？必要なら個別の解説は？
  - パンフレットの写真が全体的に小さい。
- - 全体に文字がやや小さい。また、文体が「である」調で、ややつき離した感があり、やはり「ます」調にすべき。
  - ラベル、解説に統一感があるのはよい。
- - もう少し和楽器の解説があったほうがいい。
  - 動画のQRコードが遠くて読みとれなかった。レコード以外の音も聞きたい。自分で試してみた？
- - 大サインが弱い。
  - 図録のような動画。
- - 日本の文物をよく見ると、和楽器が身近にあり、それらに日常的に親しんでいたことはよく分かった。もう少し2つ目のケースの内容を広く展示できると面白かったのではと考える。
  - 動画：文字が多すぎる。コトバを補足する程度の方がガメンに集中できる。(私自身の授業を考えると、文字多いですが…)
- - 取り組みやすいテーマであるが、文化的な考察がもっと必要。内容をもう少し焦点化する必要あり。
- - 後半部の展示は詰め込み過ぎ。
  - ルビが見えない。(解説パネルの文字が小さい。)
  - 本物の楽器を展示するのは良いと思う。
- - 楽器の基本的な情報、どのような場で演奏されるのか、の解説がほしい。
  - いろいろなものの中から和楽器を見出しているが、「その」説明こそが必要。
- - 資料配置は良い。パネルの文字は読みやすい。パネルの位置は少し高いが、資料の展示状況からやむを得ないか。
  - 照明でスポットの使用はアクセントがあって良いのだが、使用には注意が必要。
- - 雛人形の展示にも毛氈を用いた点は評価できるが、講評での指摘もあったように、しつらえを丁寧にするべきであったと思う。
  - 三枚続の浮世絵の止め具が各画の下部中央1点だけなのは、資料への影響を考えると適切ではない。

- ポスターについては、副題と連動する写真を用いた方がよかったが、デザイン及び構成はよかったと思う。
- 解説動画は表示する文字数が多すぎ、読みきれなかった。
- その他に展示したレコードの音源をQRコードで示した点はよかった。
- • 和楽器が紹介されています。平等院の雲中供養菩薩が紹介されていますが、この仏たちは何のために楽器を持っているのか記述がありません。そもそも平安時代の貴族たちはこれらの仏たちを見て、何を連想したのでしょうか。それを紹介しないと、単に楽器を持った仏たちの集団になります。
- • 少し大風呂敷を広げすぎたようで、まとまりが悪かったです。
- 動画の説明とキャプションとの資料名の不一致が気になりました。

## 総 評

- • 全体的に言えば、2ケースしかないスペースでどのようにストーリーを展開して、展示品に語らせるかといった企画部分が弱かった。
- ポスター、パンフレット、解説動画では優れたものも多くみられる一方、展示品についての理解が浅い印象である。
- • 展示資料や写真（パネル）過多で、雑然とした展示デザインになっているところが多い。
- ラベルや解説パネルの文字が小さい。CapHight>100/dを思い出せ。
- 解説パネルの位置の目安は、アイレベル=135cm（『国交省バリアフリー整備ガイドライン 旅客施設編』『参考2-2-11 近くから視認するサインの掲出高さの考え方』令和3年3月国交省総合政策局安心生活政策課）。レイアウトした展示を車いすの位置から確認してほしい。
- 展示資料・作品や展示内容の解説が浅く、物足りない。国語辞書的な簡単な説明を寄せ集めただけのような解説文が多い。
- 解説文は、推敲不足。
- ポスターやリーフレット、ビデオは、器用にまとめているように思う。
- 解説動画は冒頭の概要説明とすればやや長いように思うが、コーナー全体の列品解説とすればもう少し長くてもよい。
- パネルのカットが下手（ギザギザ、はみだしなど）。
- • キャプション（文字の大きさ、量、配置）や展示スペースの大きさを意識して展示品の量をしっかり考えてもらいたい。
- パネルの切断面などの始末があまりよくないため、見栄えがよくない。観覧する側に立って、その状態をどのように感じるかを考えてほしい。
- • 展示とパンフとも、むすび、総論がないものが多い。
- 展示者が自分の考え、なぜ展示したか、なにを読み取ってほしいかを前に出すべき。
- パンフレットも、来館者が持って帰って再度見直したとき、展示者の意図が分かるものでなければいけない。
- • 準備を始めた頃に比して、空中分解せずに展示となったのは良かったように思います。



- 全体に分担して作りドッキングさせるのは仕方がないにしても、やや不統一がめだつのが惜しい。
- 例年に比して、図録の負担が小さいのは、やはり相当に楽なように思います。
- • テーマ設定、ストーリーは良くできています。
- ノリバネの切り方、紙の貼り合わせ方など、細かい配慮をしてください。下手と雑は違います。
- • タイトル、ポスターは見やすい。すっきりしていて、分かりやすい。
- パネル刷りが雑。きたないものがあると、詳しく見る気がしない。
- 全体にアラカルトの集成展示的。
- スペースせまく、すぐ埋まってしまうので、ひねり（動き）がない→展示群としてストーリーがない。
- • 全体として、プレゼンテーションはうまいと思います。
- 中味の整理や、あと一步対象者の立場になって、展示を検討すると、より良くなると思います。
- • 制約が多いなか、頑張ったことは評価します。
- • 動画を見なくても、説明を受けなくても、一人で見てわかるような展示会にしないでほしい。
- • コロナ禍のなかで非常に苦勞されながら、各班ともよくここまで準備されたと思います。私の経験から言うと、博物館における展覧会というのは、「展示」だけでなく、ポスターやチラシ、パンフレットや図録、解説動画や関連事業も含めて、トータルで企画構想し、実施することが大切です。まずはその規格を知ってもらい、興味を持ってもらうためにはどうしたらよいか。ストレスなく観覧ができ、内容を理解し、楽しんでもらうためにはどのような配慮があるとよいのか。などなど、そうした取り組みが次の展覧会へとつながっていくのです。今回の評価はそうした点ができていて、どんな点に改善の余地があったのか。今一度振りかえってみて下さい。
- • 一般的な話として、図録の記述などではなく、お客さんが展示を見て理解ができるかどうか的大事です。その点で不足しているところを書きます。

